

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775502012		
法人名	社会福祉法人 朋寿会		
事業所名	あすか八尾グループホーム		
所在地	大阪府八尾市南太子堂4-1-14 サンライズ東宝2階		
自己評価作成日	令和2年1月20日	評価結果市町村受理日	令和2年5月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2775502012-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・認知症の進行予防、心身機能の維持、その人らしさの尊重の観点から、できる限りご自身の足で歩いていただくことを大切にしています。ご自身の身の回りのことはもちろん日常の掃除や洗濯・買い物等できる限り入居者様と職員とで協力し合い、その人らしい快適な共同生活を送って頂けるよう支援しています。また、あすか八尾グループホームが入居者様・職員双方にとって居心地の良い場所であり続けるために工夫しながら、皆でお互いに協力し合っていけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域交流を大切にしており、隣接する貸し農園との付き合いも厚く事業所の餅つき大会に来てもらったり、地域の事業所間の交流では利用者と訪問したり納涼祭に他事業所の利用者を招いています。地域のコミュニティセンターに利用者と職員で作った作品を出展したり、近隣の中学校での認知症サポーター講座に職員が携わり、また、中学生の福祉体験授業で生徒を事業所に受け入れる等、地域との交流を深めることで事業所の認知度が広がるよう取り組んでいます。長く勤めている職員も多く、毎月の会議や日々の中で随時意見を出し合い協力して、利用者の思いや好きなこと、やりたいこと等を把握し、楽器を弾きながら利用者と一緒に歌ったり、様々な体操を考案する等、利用者一人ひとりが楽しみながらがその人らしく暮らせるように支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「繋ぐすべての人の夢としあわせを実現します」の実現に向けて、ホーム内に掲示し、基本方針・行動方針の浸透を図っている。	法人理念が幹部職員が中心となって見直され、見直された基本理念、行動理念、行動指針を廊下に掲示し意識付けを行っています。理念に込めた思いを伝えるための研修を実施し、日々の中でも理念を意識して支援するように伝えています。年度末には理念の実践状況を振り返る機会を設ける予定としています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム主催の地域向けのお餅つきのイベントで地域住民や向かいのふれあい農園の方々と交流を図っている。また近隣のグループホームのお祭りにも利用者とともに参加している。地域の飲食店へ外食の機会も作り地域とのつながりを持っている。	地域交流を大切にしたい関わりは、隣接の貸し農園から野菜を頂いたり、事業所の餅つき大会で交流をしています。近隣の他事業所の祭りに利用者を出掛けたり事業所での納涼祭には招くなど交流を楽しんでいます。中学校の認知症サポーター養成講座に職員が携わり福祉体験授業で生徒を受け入れ、事業所にボランティアの訪問があり踊りや手品の披露を楽しむ等、地域との関わり深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の介護事業所と共同して、地域の中学校で認知症サポーター講座＆福祉体験授業を開催し認知症や福祉についての啓発活動を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・民生委員・高齢者あんしんセンター職員・高齢クラブ会員等の参加を得て年6回開催。スライドショーによる日々の生活状況、行事や研修会の報告等を行い、参加者からは意見や地域の情報をもらっている。	会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加の下年6回開催し、利用者の状況の伝達や活動報告、行事等の予定の連絡等を行い意見交換をしています。スライドを観てもらい利用者の日頃の様子をわかりやすく伝え、地域での催しの情報をもらい利用者と参加する等、会議を事業所への理解やサービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より高齢介護課とは報告連絡相談を密にしている。介護事業者連絡会グループホーム分科会があり、年2回市の職員を含めての情報・意見交換会をしており、現状の悩み等を相談している。コミュニティセンター主催のグループホーム展へ利用者様の作品を出展している。	運営上の手続きや相談等で行政の窓口へ訪問しています。市の施設長会に参加し、市の職員と意見交換をしています。また、行政から注意喚起や研修の案内がメールやファックスで届き、出来る限り研修に参加することで行政との協力関係を築くように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に1回法人全体で身体拘束に関する研修を行っている。また3カ月に1回職員会議の時に日々のケアが身体拘束になっていないかを職員皆で話し合い、検討している。	年1回法人の身体拘束に関する研修に全職員が参加し、職員会議や不適切委員会でも話し合い適切な対応を申し合せています。言葉かけによる制止が見られた場合はその都度注意し、安全上センサーを使用する利用がいますが、必要性は拘束委員会や職員間で検討しています。玄関は日中は施錠せず、出希望の利用者には散歩に出掛けて気分転換を図ることで閉塞感の無い支援に努めています。	

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1回法人全体で高齢者虐待に関する研修を行っている。毎月の職員会議で利用者全員のケアについて話し合い、虐待につながる不適切なケアを行っていないか、より良いケアの検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回法人全体で人権・権利擁護に関する研修会を開催し、職員も参加して理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と契約書を読み合わせて、書面と口頭を用いて十分な説明を行っている。また変更時には書面等で家族へ知らせている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族との情報交換を行い、運営に反映させている。玄関には苦情・相談意見箱を設け、利用者同士のトラブル等に対しても出来る限り早急に話し合いを行い安心して生活が送れるように心掛けている。法人に第三者委員会を設置している。	利用者の要望は日々の関わりで聞き、食事の好みや職員のウクレレ演奏で歌いたい等気軽に要望が出されその都度出来る限り応じています。家族の意見や要望は面会時や電話等で聞き、身だしなみを整えて欲しいとの要望には顔そりや上着を着る事に気を配ったり、下肢筋力の低下が気になるとの意見を受けて日々の体操に工夫を加え楽しんで体を動かせる機会を増やす等、意見をサービスに反映するように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回開催し、意見や提案を聞く機会を設けており、業務の改善や利用者様のケアの質の向上につなげている。また随時相談できる雰囲気作りにも努めている。	毎月実施する職員会議や日々の中で随時意見や提案を聞いており、業務改善に向けて多くの意見が出されています。休憩場所についての意見を聞きスペースを確保したり、物品購入の提案を受けて検討し購入に繋げる等、職員の意見や提案を運営に反映しています。年1回個人面談を実施し、また職員の様子を見て声をかけて意見や思いを聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回職員の自己評価・個人面談を行い、人事考課を実施している。評価をもとに昇給等に反映させている。資格手当、介護従事者手当の給付等、向上心を持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人全体の内部研修を行い、様々なテーマを幅広く学び合っている。全職員を対象に自身の学びたい外部研修への参加も広く募っている。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市の介護事業者連絡会に入会しており、そのグループホーム分科会などを通じて横の繋がりを作り、勉強会等にも参加している。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にケアマネが自宅に出向き、利用者様と家族に面談を行い、これまでの生活を聞き取り、ホーム内でそれに近い状況が作れるように努めています。また情報共有ノートで関わり方を記録し、本人の安心を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずはケアマネが窓口となり、様々な不安や悩み、希望を引き出せるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、まずはその状況を素早く把握し、必要な支援を見極めた上で対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の生活歴や趣味、残存能力を把握し、日常生活（調理、買い物、掃除、レクリエーション等）を共に過ごす中からお互いが協力し、日々の生活過ごしていく関係作りを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしていても家族は何にも変えられない存在であるため、面会時等に随時状況報告し、面会がしばらくない場合は電話で状況を報告し、一緒に支えていける関係作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で地域の行事等に出向き、生活されてきた八尾の街を感じてもらえるように心がけている。また何気ない日常会話の中で昔の話をしたり馴染みの人などの話題を思い出してもらったりしている。	孫や親戚等の訪問時には居室やフロアへ案内し椅子やお茶を用意してゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。家族と自宅や外食、墓参り等へ外出する際には日程調整や服装、薬等の事前の準備を支援しています。また、地域の神社の祭りに出かけるなど出来る限り思い出や馴染みのある場所や関係が途切れることがないよう支援に努めています。	

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の状態(性格や日内変動等)を把握し、利用者様同士がホームの思い思いの場所で、お互いにコミュニケーションを図れるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	理由があつて退所される場合であっても、必ず「困ったときは連絡下さい。いつでも相談にのらせて頂きます」と伝えている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ利用者様の話に耳を傾け、その中から一人一人の希望や心の奥にある思いを引き出せるように努めている。本人様が意思の伝達が困難な方は家族様から情報を得て、意向の把握に努めている。	入居前に自宅や病院等で面談し利用者や家族から生活歴や身体状況、趣味、意向等を聞き、以前のケアマネジャーや病院等からも情報を得て書面にまとめ職員間で共有しています。入居後は利用者との日々の関わりの中で思いを聞き経過観察記録に記入し、意思疎通の困難な場合は家族にも相談し職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取り以外に家族や友人また、以前利用していた施設職員や病院などから話を聞くことで、これまでの暮らしや馴染み、支え等を把握し、これからの生活に繋げていけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース会議等で現状の状態の確認を職員全体で行い、一人一人の状態や状況を常に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月は必ずケア会議を開催し、本人がより良く暮らせるようにみんなで話し合いを行っている。(必要時、緊急時は随時開催している)また、利用者・家族・主治医の意見を踏まえ、協議して介護計画を作成している。	アセスメントを基に作成した介護計画は、初回は3か月で見直し、以降は1年毎の見直しを基本としており利用者の状態に変化があれば随時の見直しをしています。モニタリングは毎月のケア会議で職員の意見を基に行い、見直し時には再アセスメントを行いサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や医師、看護師の意見を反映して利用者の現状に即して見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日日勤帯、夜勤帯で経過観察記録を行う他、個々の情報をノートに記録し、情報の共有化を図っている。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの想いや要望にできるだけ応えられるように職員で話し合い実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回の推進会議で地域の方々と情報交換を行い、地域の行事やイベントに出かけている。外食などの外に出る機会を作り、地域資源を使って地域の中で暮らしていることを感じてもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけ医を希望されている方については本人の意思を尊重し、受診できるよう支援している。また、専門医が必要な場合も安心して医療が受けられるよう家族と協力しながら支援している。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか協力医に変更するかを選択してもらい、職員の対応でかかりつけ医の受診を継続している利用者もいます。月2回協力医の往診を受け、専門医へは職員の対応で受診し結果は家族へ伝達しています。緊急時は24時間対応の協力医へ連絡し必要な指示を受けています。眼科の往診を受ける利用者がいたり、訪問歯科の週1回のケアや状態により治療を受ける利用者もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師を配置できていないので法人内の訪問看護や主治医に相談し、健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人・家族の意思確認のもと、早期退院に向けて医師・看護師・MSWと情報共有に努めている。また退院後のケアについての連携も図れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りケアを行っていない中で、施設として出来得る範囲を本人、家族に説明し、お互いに協力して、できる限りでご意向に沿えるように対応している。	入居時に指針を基に重度化した際の事業所の対応について家族に説明しています。実際に重度化した際には医師や看護師、職員から説明をして他の施設等を紹介しています。今は、看取り支援をしていますが看取り支援をするための体制を整備しており、その時々状況に応じて対応すると共に看取り支援の研修を職員が受け知識を身に付けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを見直し、職員全体に周知できるように研修会を開催している。またヒヤリ・事故報告の中で再発防止を検討し情報共有している。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。 近隣施設との災害協力協定の締結に取り組んでおり、災害時にお互いに助け合える体制を整えている。	屋間の火災発生を想定して利用者も参加して通報や避難誘導の訓練を実施し、2回目を夜間に火災や水害が発生したことを想定した訓練を実施予定です。また、地域その他施設と災害発生時の協定の締結を予定しています。災害発生に備えカセットコンロやランタン等を準備しています。	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、不適切な場面があれば職員全員がお互いに注意し合える関係を作っていくよう努力している。排泄・入浴・更衣等プライバシーの保護に細心の配慮を心がけている。	年1回法人の接遇やプライバシーに関する研修に出来る限り職員は参加して知識を身に付けています。利用者と関係性を構築しながら状況に応じて下の名前前で声をかける等、利用者が分かりやすい言葉かけをしています。不適切な声かけ等があればその都度注意し、入浴や排泄時は出来る限り同性介助を行い羞恥心にも配慮した支援にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己選択、自己決定だが、自己で判断や選択が困難な場合には二択、三択にするなど自己決定しやすいように工夫したり、表情や行動からのサインを見逃さないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHの業務マニュアルは存在するが、基本的には「臨機応変」でその日その日の利用者の状態や状況に合わせて利用者優先での対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの意向や好みを知り、季節に応じた服装やお洒落への支援(買い物を含)、また衣替え等家族にもご協力いただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の見えるところで準備・調理できるようにしている。食事作りや手作りおやつを機会を設けたり、片付けを手伝ってもらっている。	昼食と夕食は利用者の好みや季節の物を取り入れた献立を基に法人本部から届き、細かな希望や食べたいものを組み込むなど要望に応じて貰っています。朝食はパンやご飯など利用者に応じて職員が作っています。行事の際には法人の献立を止めてすき焼きや鍋料理、お好み焼き等を作って提供し職員も一緒に食べています。善哉やホットケーキ等のおやつを手作りしたり、個別で外食に出掛ける等食事を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や分量に関しては管理栄養士に管理してもらっているが、個々の状態や状況に応じて食事量の調整を行っている。また、食事量が少なく栄養状態が保てない場合に関しては代替食品の使用などを検討している。		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できるだけ毎食後には利用者全員個々の状態に合わせた口腔ケア支援を行い、誤嚥性肺炎の予防を目的に口腔清潔に努めている。また、週に1回歯科往診により口腔内の確認を行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はできる限りトイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表で個人ごとにパターンを把握して、誘導しています。	日中はトイレでの排泄を基本とし、必要に応じて排泄の記録を取り個々の利用者のパターンを把握し、時間や様子も見ながら一人ひとりに応じて声かけやトイレへの案内をしています。出来る限りトイレでの排泄を支援し、利用者に応じた排泄用品の種類や支援方法等について職員間で検討し、排泄の状態の維持や自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促す作用のある食品や下剤等双方で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は基本的に入浴曜日を決めて週に2回行っている。入浴方法に関しては個人の希望や状態に応じて職員マンツーマンでの対応を行っている。	入浴は週2回午前から夕方までの時間帯に入ってもらい、希望があれば回数を増やすことも可能です。拒否が見られる場合は声をかける職員を代えたり日時を変える等の工夫をすることで無理なく入浴してもらっています。一人ずつ湯を交換し、入浴剤を使用したり好みの石鹸やシャンプー等を持ち込む方もいる等、会話も楽しみながらゆっくり入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない場合等は落ち着くまで一緒に過ごしたり、暖かいお茶やお菓子で空腹を満たしたり、こまめな巡回で室温調整を行ったりしている。また、日中に生活リズムが整えられるよう(散歩、レク等)に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでも薬の作用が確認できるように、全員の処方箋を保管・管理している。また、新しく追加された場合や変更があった場合は口頭や文章で連絡している。適切な服薬のために主治医への情報提供は密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や生活習慣、性格等を把握し、無理のない範囲で役割を行うことによって自信や生き甲斐に繋げていけるような支援を行っている。(掃除、洗濯、調理等)		

あすか八尾グループホーム

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣やお花見、納涼祭、お餅つきや近隣施設のお祭りなど季節ごとに外出する機会をもっている。また外食に出かけたり、家族の協力を得て自宅へ帰ったりもしている。	気候や天気に応じて出来る限り散歩に行くように努め、思い立って買い物に出掛けたり外気浴をすることもあります。季節に合わせて初詣や桜の花見、法人の納涼祭等に出掛けたり、また1～2か月間に1度は外出行事を実施して外食やカラオケに行く等、外出する機会を多く持てるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支障がない方は家族からお小遣いを預かり、施設で保管して、買い物などへ行った際は自分で支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては公衆電話や個人の電話がないため、本人が希望した時や必要と判断した場合に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を行い気持ちよく生活出来るように配慮している。また、季節に応じた飾り付けをして、見た目にも季節感が感じれるように工夫している。また日々の生活の様子の写真を掲示したりもしている。	生花を飾ったり、正月やひな人形等の季節の飾り付けを行い、また利用者と作成したハーバリウム等を設置しています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、ソファを多く置きゆったり過ごせるように工夫しています。温湿度計を設置して利用者の体感も聞きながら室温を調整し、加湿器を使用して毎日利用者も出来ることに携わりながら掃除や換気を行い快適に過ごせる共有空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	有の居間スペース(和室①洋間①)が2カ所ある。 ソファの配置など工夫して気の合った方との時間が取れたり、一人で過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅に出向き馴染みのものを持参いただけるように依頼し、使い慣れた家具や洋服などを出来る限り持参して頂き、自宅に居た雰囲気近くに近づけることで居心地よく生活していただけるように工夫している。	入居時に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、テレビや棚、机、椅子、ぬいぐるみ、家族の写真等を持参し、家族と職員で相談しながら配置しています。カセットデッキや写経の道具等を持って来ている利用者もあり、その人らしい居室となっています。毎日換気や利用者もモップ掛け等に携わりながら清掃を行い、快適に過ごせる居室となるように努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりの設置や福祉用具の活用、バリアフリーを取り入れ、また、事故等が起こらないように環境整備にも常に気を付けている。初めから出来ないことと決めつけず、「どうすればできるか?」「どうすればできるようになるか?」を念頭に置き時に一緒に寄り添い考えながら支援している。		